

## 地域でエネルギーを創る 持続可能燃料の可能性

イラン情勢の影響で原油価格が上昇し、ガソリン代も高騰。物流や農漁業のコスト増を通じて、家計の負担も重くなっています。緊急的な価格対策は必要ですが、それだけでは十分ではありません。日本はエネルギーの約9割を海外に依存しており、この構造そのものを見直す必要があります。だからこそ、「地域でエネルギーを生み出す」という発想への転換が不可欠です。

### 《F1が示す「未来の燃料」》

F1が導入する**100%持続可能燃料（前号参照）**とは、化石燃料に頼らず、同等の性能を持つ燃料を非化石由来で製造したものです。主な原料は、①再生可能エネルギー由来の水素とCO<sub>2</sub>からつくるeFuel、②非食用第2世代バイオ燃料、③都市廃棄物です。これらは従来のガソリンと同等の性能を保ちながらCO<sub>2</sub>排出を大幅に削減でき、さらに既存のエンジン車やインフラをそのまま使える「**ドロップイン燃料**」である点に大きな特徴があります。世界中の内燃機関車の脱炭素化を一気に進める可能性があるものです。

### 《鍵を握る「水素」》

こうした持続可能燃料の中核にあるのが「水素」です。水素は、eFuelの原料となるだけでなく、燃料電池や水素エンジンとしても活用される重要なエネルギーです。

水素は「作る・運ぶ・使う」に分けて考えられます。日本は「使う」分野に強く、燃料電池車や水素トラックで世界をリードしています。水素を「運ぶ」技術にも強みがあります。最大の課題は、いかに安く「作る」かです。水素には3種ありますが、理想とされるグリーン水素は電気代に左右されるため、日本ではコスト面で不利です。

一方、産油国や中国、インドは安価なエネルギーを背景に水素への投資を拡大しています。中国は生産・消費ともに世界最大ですが、その多くが石炭由来でCO<sub>2</sub>排出が多いという課題も抱えています。

《田原市は「未来のエネルギーの最前線」》  
こうした中で重要になるのが、再生可能エネルギーの活用です。私たちの地元・田原市は、日本最大級のバイオマス発電や広大な太陽光発電、洋上風力発電の実証も進む、全国でも有数の可能性を持つ地域です。

《エネルギーの地産地消が暮らしを守る》  
再生可能エネルギーは、電気として使うだけでなく、水素や合成燃料に変えて蓄え、運び、さまざま

山本左近の活動はこちら



H.P. YouTube Twitter Facebook Instagram

まな用途に活用できます。余剰電力から水素をつくり、それを車や船の燃料として使い、さらに**合成燃料へと展開する**。これにより、地域は「エネルギーを買う側」から「生み出す側」へと転換できます。

### 《地域から日本の未来をつくる》

この地域の力を最大限に引き出すためには、**水素燃料電池トラックの普及などで「使う場」を広げ、需要を創出することが重要**です。

あわせて、eFuelと水素の直接利用を並行して実証し、技術の標準を主導していきます。

特にトラックや船舶など、脱炭素が難しい分野での展開が鍵となります。

生活、農業や漁業とエネルギーをつなぎ、新たな産業と雇用を生み出す。若い世代が安心して働ける地域をつくるのが目標です。**エネルギー政策は暮らしに直結**します。外に頼るのではなく、この地域から持続可能な未来を築いていきたいと考えています。

### 《やまもと・さこん》



愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。43歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙にて落選。2026年第51回衆議院議員総選挙にて2期目の当選。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

衆議院議員

山本左近

# 緊急的激変緩和措置 開始!

イラン情勢を踏まえて、原油価格高騰による石油製品価格の高騰を抑制するため、緊急的に燃料油（ガソリン、軽油、重油、灯油、航空機燃料）に対する支援を令和8年3月19日から開始します。

イラン情勢を受けた燃料価格の緊急激変緩和措置 (2026年3月)

背景：原油価格の高騰とリスク

原油価格が1バレル120ドルに迫る局面  
イラン情勢の影響により、足元で原油価格が急激に上昇しています。

ガソリン価格が200円/Lを超える可能性  
対策を講じない場合、小売価格が過去最高水準に達する恐れがあります。

対策：緊急的な価格抑制措置

ガソリン全国平均を170円程度に抑制  
170円を超える部分に対し、10/10（全額）の補助を実施します。

2026年3月19日（木）出荷分より開始  
迅速な価格転嫁抑制のため、早急に支給を開始します。

多様な燃料油も支援対象

対象油種	支援の基準・内容
ガソリン	170円程度を上限とし、超過分を全額補助
軽油・重油・灯油	ガソリンと同額の補助を実施
航空機燃料	ガソリン補助額の4割相当を支援

2026年3月19日以降の支給単価

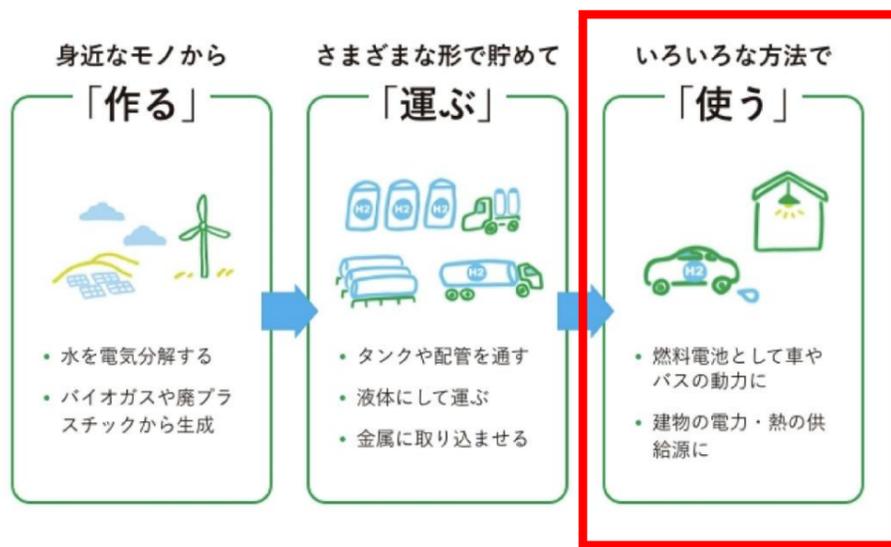
ガソリン 30.2円/L  
軽油 47.3円/L  
灯油・重油 30.2円/L  
航空機燃料 12.0円/L

## トヨタ自動車 佐藤恒治社長が「水素大動脈構想」を提案



自民党水素議連の総会にて佐藤恒治社長と再会

「作る、運ぶ、使う」の水素を「使う」から広げる



2023年5月にいすゞ社のFCEVトラックを試乗。静かで、振動も少なく、乗り心地などディーゼルとは全く違う新しい時代の幕開けを感じました。

FC商用車をハブとして水素需給を作り、水素活用を増やしていくことで、さらなる水素技術の向上、水素産業全体の育成に。



開会中も土日は、地元で活動しています。気軽にイベントなどにお声かけください!

←野依八幡社の枝垂れ桜祭りに出席。

中村竜彦県議、本多洋之豊橋市議とともに。

帰ってきた時に豊橋駅での駅頭活動も継続中→

**JAPAN as No.1 Again!**

日本を再び世界一の国へ

